

流行性耳下腺炎とRSウイルス感染症に注意しましょう

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	→ 0	0	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↓ 56	83	ヘルパンギーナ	↓ 27	34
咽頭結膜熱	↑ 29	16	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↓ 106	111
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑ 43	38	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↓ 344	357	流行性角結膜炎(はやり目)	↑ 13	12
水痘	→ 20	20	細菌性髄膜炎	↓ 0	1
手足口病	↑ 41	31	無菌性髄膜炎	↑ 6	3
伝染性紅斑(りんご病)	↑ 3	2	マイコプラズマ肺炎	↑ 12	8
突発性発疹	↓ 35	42	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↑ 1	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- 流行性耳下腺炎
- RSウイルス感染症

大きな流行が発生又は継続しつつある地域

流行性耳下腺炎：八代、山鹿

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
1 熊本市保健所	0	21	8	13	91	5	4	1	14	0	5	18	0	9	0	6	7	0	1
2 山鹿保健所	0	0	0	0	23	0	5	1	2	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0
3 菊池保健所	0	17	3	4	68	0	1	1	6	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0
4 阿蘇保健所	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 御船保健所	0	0	0	5	11	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0
6 八代保健所	0	1	4	0	23	1	6	0	2	0	3	31	0	0	0	0	0	0	0
7 水俣保健所	0	0	0	0	1	3	0	0	1	0	0	9	0	0	0	0	4	0	0
8 人吉保健所	0	2	0	2	15	7	0	0	2	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0
9 有明保健所	0	3	5	3	93	0	7	0	1	0	0	10	0	4	0	0	1	0	0
10 宇城保健所	0	12	0	12	14	0	13	0	3	0	2	6	0	0	0	0	0	0	0
11 天草保健所	0	0	9	2	5	4	5	0	4	0	16	6	0	0	0	0	0	0	0
計	0	56	29	43	344	20	41	3	35	0	27	106	0	13	0	6	12	0	1

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点年齢区分	合計	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科定点年齢区分	合計	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20歳以上						
RSウイルス感染症	56	9	11	23	6	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	29	0	2	10	5	1	6	4	0	0	1	0	0	0	0						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43	0	0	3	1	2	8	6	5	1	4	5	6	1	1						
感染性胃腸炎	344	3	33	56	38	33	33	34	15	14	13	11	30	8	23						
水痘	20	0	0	4	3	2	3	2	3	2	1	0	0	0	0						
手足口病	41	0	10	15	5	5	2	3	0	0	0	0	0	1							
伝染性紅斑	3	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0						
突発性発疹	35	2	17	14	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0						
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
ヘルパンギーナ	27	0	4	7	6	1	4	2	1	0	0	2	0	0	0						
流行性耳下腺炎	106	0	0	7	5	30	15	10	14	6	9	4	5	1	0						
眼科定点年齢区分	合計	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	13	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	5	0	0	2	1	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	6	1	1	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	12	0	4	5	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

引き続き、流行性耳下腺炎に注意しましょう

今週の流行性耳下腺炎の報告数は106件、定点あたりの報告数は微減ですが、依然として今年は報告数が多い状態が続いています。警報レベルが続いていた八代地域では、報告数は増加し、11週連続で警報レベルです。

RSウイルス感染症に増加の兆しが見られます

今週のRSウイルス感染症の報告数は減少しましたが、例年、秋から冬にかけて報告数が増加する傾向にあります。RSウイルス感染症は、乳児が感染する感染症で、生後1歳までに半数以上が、2歳までにすべての小児が感染するといわれています。特に、生後6か月以内の乳児がRSウイルスに初めてかかった場合、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を起こすことがありますので、生後6か月以内の乳幼児は、感染しないように注意しましょう。症状は、鼻水、咳、発熱などいわゆる「かぜ」のような症状がみられ、1~2週間で軽快するといわれています。飛沫・接触感染が主な感染経路で、予防策は、流行期には赤ちゃんを人ごみに連れて行かない、症状のある家族はマスクをする、外出後の手洗いをきちんと行う、子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはアルコールや塩素系の消毒剤で消毒する等です。



KKT医療ナビ!

Dr. Televitan

KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供：熊本県健康福祉部 健康危機管理課

